

スケトウダラ ベーリング公海

Walleye Pollock, *Gadus chalcogrammus*



管理・関係機関

中央ベーリング海におけるすけとうだら資源の保存及び管理に関する条約 (CCBSP)

生物学的特性

- 体長・体重：尾叉長 60 cm・2 kg
- 寿命：10 歳以上
- 成熟開始年齢：4～5 歳
- 産卵期・産卵場：3 月、アリューシャン海盆南東部
- 索餌期・索餌場：アリューシャン海盆
- 食性：橈脚類、オキアミ類、魚類等
- 捕食者：海鳥、魚類、海産哺乳類等（幼魚期）、海産哺乳類等（成魚期）

利用・用途

主にすり身原料やたらこととして利用される

漁業の特徴

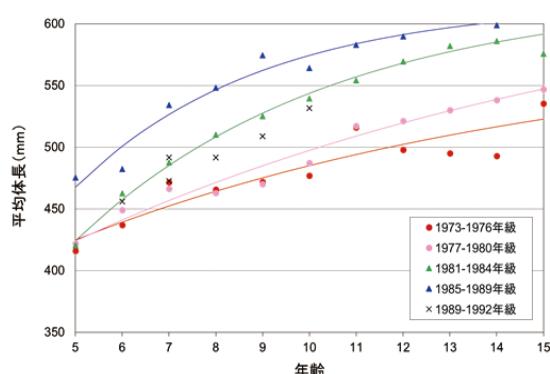
1980 年代半ば、200 海里体制が確立され、我が国の北洋底魚漁業がベーリング海大陸棚漁場を失いつつあったころ、我が国がアリューシャン海盆に生息する本種資源を対象とする中層トロール漁業を開発した。漁場はベーリング海中央部の公海域に設定された。我が国のほか、韓国、ポーランド、ロシア及び中国が操業した。漁場となる海盆域には成魚のみが分布することから、未成魚は周辺の大陸棚海域で生活していると考えられる。全漁業国は、資源状態の悪化に伴い 1993 年にこの公海漁業を自主的に停止した。1995 年以降は CCBSP による措置に基づき停止が続いている。

漁獲の動向

漁獲量は開発当初の 1985 年から急増し、1989 年には日本、韓国、ポーランド、ロシア及び中国により 145 万トンに達した。しかし、1989 年をピークに漁獲量は激減し、1992 年には資源状態の悪化により 1 万トンまで落ち込んだ。1994 年以降の漁獲量は 0 となっている。

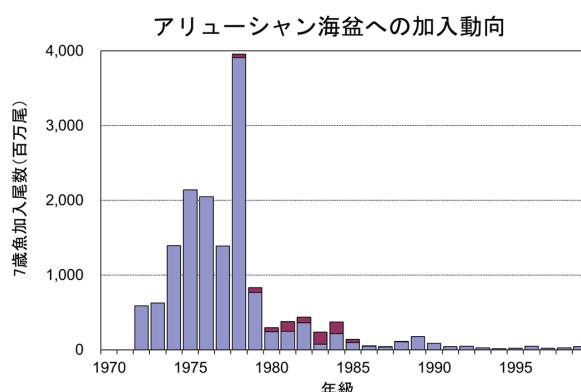
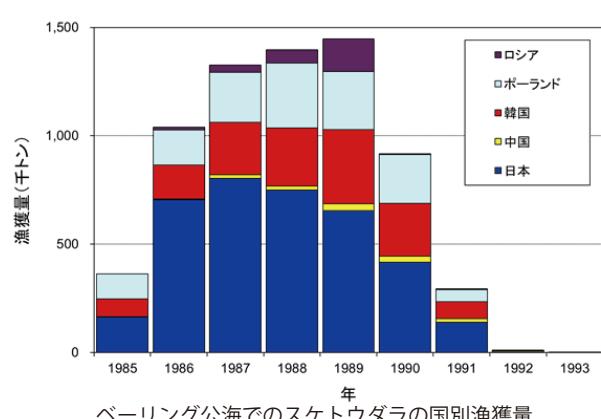
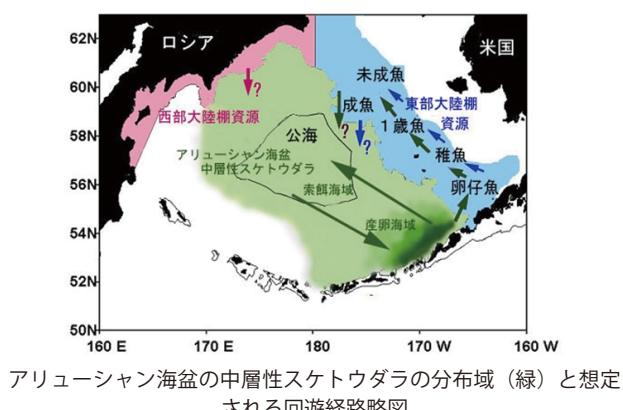
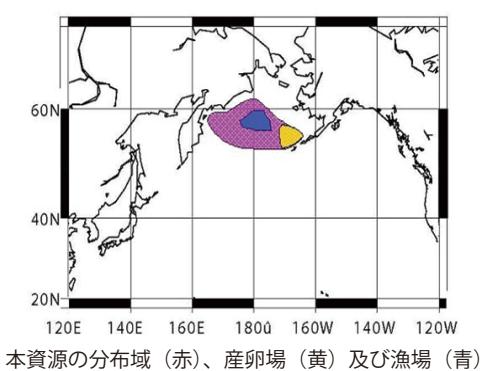
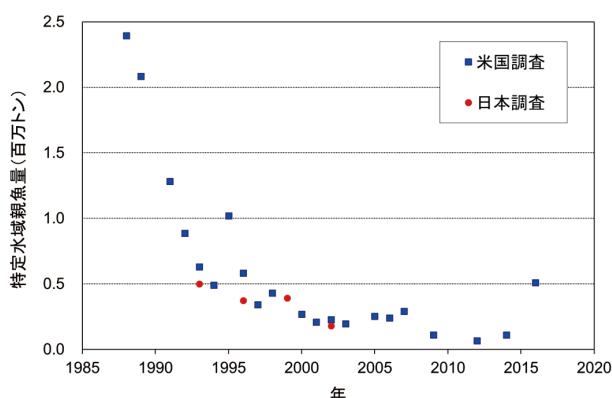
資源状態

本海域資源では、冬季のアリューシャン海盆南東部のボゴスロフ諸島周辺水域（以下、特定水域）に産卵親魚が集群する。日米の調査船調査により推定された、特定水域の親魚の現存量は、1980 年代後半に 200 万トンを超したが、1990 年代に入り激減して 1994 年には 50 万トンを下回り、2000 年代以降は低位水準が続いている。2016 年の米国調査による推定値は 51.0 万トンであった（2017 年調査未実施）。CCBSP の規定に従い、特定海域に資源量の 60% が分布と仮定すると、本資源の分布域である海盆全域の資源量はおよそ 85 万トンと推定される。この資源量は、漁業の全盛期であった 1980 年代後半の推定値の 5 分の 1 程度の低水準となっている。



アリューシャン海盆スケトウダラ（雌）にみられる年齢・体長関係の経年変化

管理方策	
本資源は、国際条約の CCBSP により管理されている。特定水域の調査結果から ABC を決定し、加盟国が合意した漁獲可能水準 (AHL : Acceptable Harvest Level) が得られる場合にはこれを採用する。しかし、合意に至らない場合、漁業再開のためには 1990 年代初頭の水準に達することが必要であるとの考え方から、海盆の資源量が 167 万トンを越すことが必要とされる（特定水域の現存量はその 60% の 100 万トン）。この場合の AHL は条約附属書により設定されている。CCBSP の 2016 年の締約国年次会議、及び科学技術委員会では、資源は依然として低水準であると判断され、資源の回復が十分でないため、1995 年以降の AHL が 0 の漁業停止状態を引き続き継続することとなった。	



特定水域で米国調査により捕捉された 7 歳魚加入尾数（1988 年以前の加入尾数は生残率から逆算された推定値を使用；赤は漁獲減耗）

スケトウダラ（ベーリング公海）の資源の現況（要約表）

資源水準	低 位
資源動向	横ばい
世界の漁獲量（最近 5 年間）	0 (漁業停止)
我が国の漁獲量（最近 5 年間）	0 (漁業停止)
管理目標	条約附属書に規定された親魚量に回復 167 万トン(1990 年代初頭の資源水準)
資源評価の方法	特定水域現存量を指標として判断
資源の状態	SSB (2016 年) 85 万トン (≈ 50%)
管理措置	漁業停止
最新の資源評価年	—
次回の資源評価年	—